

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月30日現在

機関番号：17401

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21530124

研究課題名（和文） 共同性の再構築に関する思想研究

研究課題名（英文） Research in the Reconstruction of community from the viewpoint of thought

研究代表者

岩岡 中正（IWAOKA NAKAMASA）

熊本大学・法学部・教授

研究者番号：70136711

研究成果の概要（和文）：本研究に関して、以下の2種類の成果をあげた。

- (1) 新しい脱近代の世界観の意味とそれへのパラダイム転換の構造について、哲学、文学、宗教など根源的で学際的な研究によって解明した。
- (2) 新しい脱近代の共同性の回復と再構築について、具体的に地域やことばの役割のみならず、石牟礼道子や高浜虚子のような脱近代の思想を通して研究した。さらに、脱近代的共同性の再構築のためには例えば正岡子規の思想に現れたような「近代性」が不可欠であることを示した。

研究成果の概要（英文）：Two kinds of achievements obtained by this research are as follows

- (1) This research clarified the meaning of the new post-modern world view and the structure of the post-modern paradigm change, by the radical and interdisciplinary study of philosophy, literature and religion .
- (2) This research investigated the way of the restoration and reconstruction of the new post-modern community by considering concretely not only the role of the locality and language, but also the thoughts of post-modern thinkers such as Michiko Ishimure and Kyoshi Takahama. Moreover it showed that `the modernity` (for example, appeared in Shiki Msaoka's thought) is indispensable for the reconstruction of the post-modern community.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	2,000,000	600,000	2,600,000

研究分野：政治学

科研費の分科・細目：政治学・政治学

キーワード：近代、脱近代、共同性、地域

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 研究の学術的背景

いわゆる脱近代パラダイム転換と共同性の回復に関する研究は、たとえばリベラリズム VS コミュニタリアン論争にみられるように、政治思想研究の理論レベルで行われてきたが、①さらにより深い価値観や文学を含む人間研究のレベルからの研究や、②脱近代の価値観を具体的にどこでどう実現するかという視点からの共同性の再構築の研究が、まだ不十分であった。

### (2) 私の課題とそれへの準備状況

そこで設定された私の課題は、①より深い思想レベルから、脱近代社会の新しい価値観の創出を明らかにすることであり、②近代後の秩序形成へ向けて共同性を再構築することであった。

この課題に対して、2009年までに私は、科研費「西欧の非西欧社会における『近代』の検証と近代化の普遍的条件に関する思想文化的研究」(研究代表者・岩岡、1996～2008年)や、熊本大学拠点形成研究「脱近代社会の秩序形成の原理と政策に関する研究」(研究代表者・岩岡、2003～2005年)を行い、『「地域公共圏」の政治学』(伊藤洋典と共著、ナカニシヤ出版、2004年)や『ロマン主義から石牟礼道子へ—近代批判と共同性の回復』(木鐸社、2007年)他の成果を得ていた。

これらの成果の上で私は、さらに脱近代的価値観のより深い人間論的レベルからの共同性の回復に関する研究と、その具体化に関する本研究課題を設定した。

## 2. 研究の目的

以上の背景をふまえて私はさらに、以下の2つの研究目的を設定した。

(1) 脱近代社会の新しい価値観の創出について、より深い思想的基礎から明らかにする。

これまでの近代自由主義の「市民」原理と機械論的自然観や功利主義的人間観を超えて、有機体的自然観や新しい「人間」を志向する新しい脱近代的価値観を、さらに深い人間論的基礎と学際的視点から研究して、脱近代へのパラダイム転換を明らかにすること。

(2) 共同性の回復と再構築について具体的に明らかにする。

今日の最大の課題である共同性の再構築について、(1)の新しい価値観をふまえて、理論的に研究するとともに、さらに具体的にどこでどのようにして共同性を再構築するかを学際的視点から明らかにする。

## 3. 研究の方法

基本的には思想史研究として文献資料を

素材とするが、上記の目的のために、手法という点で、以下の2つの点を特徴とする。

(1) 脱近代的価値観の研究のための学際的手法。

従来の近代的価値観から新しい脱近代的価値観へのパラダイム転換とそれに基づく共同性の構造転換は極めて根源的であるため、たんなる政治思想にとどまらない思想史、文化史、哲学、人間論、世界観、さらに文学や宗教レベルからの解明が不可欠であり、本研究の特徴は、その学際的手法にある。

(2) 脱近代的共同性の再構築の研究のための地域的学際的手法。

新しい脱近代的共同性をどのように再構築するかという研究手法は、従来の近代的手法のような近代国家や近代化からの視点でなく、第一に、地域からの視点が不可欠である。第二に、たんなる政治や行政からの視点ではなく、ことばや文化からの視点が必要であって、その点で、人間のありようを規定する文化や宗教を素材とする学際的手法が有効である。

## 4. 研究成果

(1) 学際的手法で脱近代パラダイム転換の思想研究を深化させた。

近代から脱近代へのパラダイム転換について、政治思想のみならず、さらに学際的に哲学、文学、宗教的思想を素材と手法として用いながら、より基底的な世界観や人間論のレベルでの構造転換の解明を進めた。具体的な研究成果は、以下のとおりである。

①論文・岩岡中正「脱近代パラダイム転換」(2011年)は、この激論のこれまでの経緯と展望を総括したものである。本論文は、筆者の問題関心が「近代」政治思想であった初期から、時代精神とともに近代批判に転じ、イギリス・ロマン主義から我が国における石牟礼道子、さらには高浜虚子へと反近代思想研究を展開していった軌跡をたどって、自らの研究史と現代思想の脱近代的方向へのパラダイム転換を重ねて論じたものである。これは、同時代史への独特の精神的試みといえるだろう。

②論文・岩岡中正「文学と宗教」(2011年)は、文学作品を素材に、他力の文学の中に脱近代的共同性の基礎を見ようとするものである。本論文は、文学と宗教の学際的考察であるとともに、創作と理論の間で生まれた実践的業績であって、近代の「作為」を超える能動的受容の力の重要性を指摘した点が新しい。

③論文・岩岡中正「虚子における自由」(2011年)は、高浜虚子の世界観の中に、近代自由主義の自由とは全く異質の新しい脱近代的自由の概念を見て、これを評価するものである。本論文は、今日の自由主義批判の系譜に属するもので、ここでは正岡子規の自由論(ないし「近代」)を念頭に置きつつ、もうひとつの脱近代的自由論を構想したもので、これまでにない新しい学際的試みである。

④国際学会招待講演・岩岡中正「虚子文学における自力と他力ー脱近代の思想と方法」(2011年、台湾)は、むしろ他力の中にこそ積極的な力を見ようとする主張である。なおこの講演は、台湾で刊行予定(「台湾日本語文芸研究」12号)である。台南市の長榮大学での第11回「台湾日本語文芸研究学会」における本講演は、上記の②③の論文をふまえた脱近代思想論であって、創作と他力をめぐる問題として、同学会でも種々の議論が行われた。

⑤図書・岩岡中正『虚子と現代』(2010年、岩波書店)

高浜虚子の文学を素材に、その脱近代的な世界観へのパラダイム転換の今日的意味とその思想的基盤について解明した。さらに本書は、「子規から虚子へ」として虚子の脱近代的な世界観の今日的意味を再評価したのみならず、同時に、「虚子から子規へ」という形で、今こそ虚子の脱近代的理念を実現するための近代的エネルギーを子規の「近代」に求めようとする、いわば「近代後の近代」の視点もあわせ持っている点が評価された。この論点は、次の(2)の研究とも深く関わる。本書は2011年に、第11回山本健吉文学賞(評論部門)を受賞するとともに、新聞で8本、その他の本や雑誌で6本の書評や紹介をされた。

(2)脱近代的共同性の再構築とそのための近代性の必要性に関する研究を新たに開始した。

これからの脱近代社会における新しい共同性の回復とその再構築という課題に取り組み、新しい研究を開始した。それは、近代の二元論や対立から、たとえば石牟礼道子や高浜虚子のような「存在」の肯定による、新たな和解と共同性の回復に関する研究であるが、こうした脱近代的共同性の再構築にあたっては、たとえば正岡子規に見るような初発の近代の形成エネルギーが必要であることも明らかにした。

以上の点を、石牟礼道子、高浜虚子、正岡子規という文学思想レベルから学際的に解明するとともに、下記の⑤のことで地域形成の理論的試みを行ったり、いくつかの

シンポジウムで、具体的事例を通して示して明らかにした。

本研究は、今日、近代化の過剰による共同性の崩壊に対して、ひとつの理念や方向性として脱近代的共同世界のあり方をさし示すとともに、これを構築するための近代性の必要性も説く、新しい「近代後の近代」を展望する研究であって、これから、以上の視点で子規研究に取り組む予定であり、この研究に対して、平成24年度熊本大学出版助成金が与えられた。

具体的な研究成果は、以下のとおりである。

①報告・岩岡中正「石牟礼道子と21世紀への応答ー和解・存在・希望」(2009年)では、石牟礼道子における脱近代的共同性の世界を明らかにした。この報告は、トロント大学からリヴィア・モネ教授の他ブルース・アレン教授ら今日の国際レベルの研究者を招いて行われた国際シンポジウム「石牟礼道子ー21世紀への応答」(司会・岩岡)における報告であるが、このシンポジウムは、石牟礼道子研究の世界的ひろがりを示すものとして画期的な企画であり、広く注目された。

②論文・岩岡中正「共同性の再構築ー高浜虚子の共同性思想」(2010年)は、虚子文学の中に新しい脱近代的な共同性思想を見出し、分析を加えた。この論文は、とくに脱近代的共同性としての「関係性の世界」の構造分析とその回復を論じた学際研究の成果である。

③論文・岩岡中正「ことばと地域形成」(2010年)では、ことばによる地域の共同性の再構築について実践的学際的分析を行った。

④論文・岩岡中正「子規における近代性の構築」(2011年)は、脱近代を超える「近代後の近代」の視点から、子規の初期近代の中に、共同性の基礎となる近代後の再構築の力を見出そうとする研究である。この論文は、西洋近代とくにピューリタニズムの近代性を比較の視座としておきつつ、正岡子規評伝の分析を通して子規の近代性(モダニティ)を明らかにした点に特徴があり、これからの子規研究の視角を定める意味のある論文である。

⑤その他、「熊本の都市戦略と文化政策」(2011年)、「ポスト3.11から新たな行動変容を考える」(2012年)などの地域形成に関するシンポジウムの企画や司会を行った。「熊本の都市戦略と文化政策」は、文化経済学会会長の後藤和子教授を招いての文化政策研究会であるが、これは2010年開催の、ことばや文化による地域形成のひとつとしての熊本ルネサンス運動をめぐるシンポジウムを

さらに展開したものであって、脱近代的共同性の再構築という意義をもつものである。さらにシンポジウム「ポスト 3.11 から新たな行動変容を考える」も、ひとつの脱近代的行動様式へのパラダイム転換を、防災科学、コミュニティ論、風土論、健康論の各視点から論じる学際的共同研究であって、今後の共同性の再構築のあり方を示唆するものである。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

①岩岡中正、子規における近代性の構造、熊本法学、査読有、123号、2011、1-18  
<http://reposit.lib.kumamoto-u.ac.jp>

②岩岡中正、文学と宗教、道標、人間学研究会、査読無、34号、2011、1-18

③岩岡中正、脱近代パラダイム転換 (高橋隆雄編『将来世代学の構想』所収)、九州大学出版会、査読無、2011、23-33

④岩岡中正、虚子における「自由」、熊本法学、査読有、122号、2011、203-220  
<http://reposit.lib.kumamoto-u.ac.jp>

⑤岩岡中正、ことばと地域形成－共同性の再構築へ向けて、査読有、119号、2010、111-130  
<http://reposit.lib.kumamoto-u.ac.jp>

⑥岩岡中正、共同性の再構築－高浜虚子の共同性思想 (山崎広道編『法と政策をめぐる現代の変容』所収)、成文堂、査読有、2010、365-386

[学会発表] (計2件)

①岩岡中正、虚子文学における自力と他力－脱近代の思想と方法、台湾日本語文芸研究学会国際シンポジウム (招待講演)、2011.12.3、台湾・台南市、長榮大学

②岩岡中正、石牟礼道子と21世紀への応答－和解・存在・希望、シンポジウム「石牟礼道子－21世紀への応答、2009.5.30、くまもと県民交流会館

[図書] (計1件)

①岩岡中正、虚子と現代、角川書店、2010、207

[産業財産権]

○出願状況 (計0件)

[その他]  
ホームページ等

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

岩岡 中正 (IWAOKA NAKAMASA)

熊本大学・法学部・教授

研究者番号：70136711

##### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

##### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：